

國學院大學学術情報リポジトリ

ワークショップ「見えざるものをエガク」「見えざるものをカタル」

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2024-07-02 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/0002000590

ワークショップ「見えざるものをエガク」「見えざるものをカタル」

トピック1で述べたように、2020年12月に日本文化研究所主催で2020年度国際研究フォーラム「見えざるものたちと日本人」という一連の企画を催行した。

二回のワークショップは、テーマについての知識を深めるため、様々な角度から「見えざるもの」について研究している方々のお話を伺う場として設定された。研究者・学生を主たる対象とした比較的小規模なものとして企画され、平日の夜にオンラインで開催することとした。

◇ワークショップ1「見えざるものをエガク」

・日時：2020年12月10日（木）19時～21時30分

・場所：Zoomによるオンライン開催

・報告者（敬称略・発表順）、題目：

- (1) 遠藤美織（江戸東京博物館）「勸化本における地獄極楽と現世—『孝子善之丞感得伝』を中心に—」
- (2) 渡邊晃（太田記念美術館）「浮世絵に描かれた〈見えざるもの〉」

・司会：星野靖二（日本文化研究所）

・参加者：最大三三名



◇ワークショップ2「見えざるものをカタル」

・日時：2020年12月16日（水）19時～21時30分

・場所：Zoomによるオンライン開催

・報告者（敬称略・発表順）、題目：

- (1) 廣田龍平（東洋大学）「非人間の／による認識の存在論的造作」
- (2) ドリュー・リチャードソン（カリフォルニア大学サンタクルズ校、國學院大學国際招聘研究員）「雪、妖怪、ゆるキャラ：北越雪譜と越後のアイデンティティについて」

・司会：星野靖二（日本文化研究所）

・参加者：最大三六名

二回のワークショップでは、それぞれ視覚文化、表象にまつわる問題が取り上げられ、参加者は知識を深めることができた。浮世絵における表象や、あるいは見えるとはどういうことか、何を以て見えるとするのかといったテクノロジーに関わる問題は、講演会の際の議論においても展開されることとなり、学びの多い一連の企画となった。（星野靖二）

